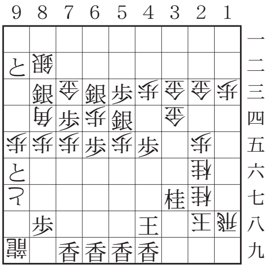
神無一族の氾濫

担当　神無七郎

☆今回の氾濫は「玉が動いて王手する作品」の特集です。普段は守られる立場の玉がどのような形で攻撃に参加するか、ご注目を。

①ばか詰　47手

神無三郎



持駒　角桂歩2

19角、17玉、28角、16玉、17歩、15玉、16歩、14玉、15歩、24玉、16桂、35玉、36歩、46玉、58王、56玉、68王、66玉、78王、76玉、68王、66玉、68王、66玉、86と、同歩、68王、66玉、58王、56玉、48王、46玉、25桂、37歩、58王、56玉、68王、66玉、78王、76玉、68王、85玉、94銀生、同玉、93と、同玉、94歩、83玉、73歩成、同玉、74金迄47手。

☆課題の「玉が動く王手」を攻方・受方の両方で行う作品。２手目がさりげなく逆王手になっています。軽い序奏の後、攻方王が動く王手が始まるその矢先に山場が訪れます。

原雅彦―25桂のタイミングが早すぎて苦戦。

☆15手目25桂が陥りやすい紛れ。ここで25桂、36玉、37歩、46玉……と進めてしまうと収束で歩が足りなくなります。これを防ぐには……

山本強志―25歩を取る前に1往復して1歩渡しておくのがポイント。

☆先に左辺で86ととすれば、25桂としたときに37歩と合駒できます。全駒使用の構図が、1歩を得るため1歩を渡す不思議な手順を成立させているわけです。

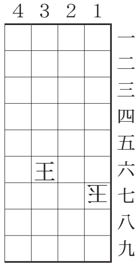
西村恒雄―暗算で35手。ン？86とが85を開ける意味と合駒を渡す意味があるんですね。

☆86とには二重の意味がありますが、おかげで「後でもできる手を先にする」手順が成立します。先述の紛れの他、初手29歩とした無解者もおり、次の格言を改めて思い出させる作品です。

武田静山―一歩千金。

②安南ばか詰　11手

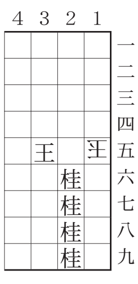
神無太郎



持駒　桂桂桂桂

29桂、16玉、28桂、15玉、27王、25玉、26桂、14玉、35王、15玉、27桂迄11手。

詰上り



【安南】味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

岩本修―玉の動きが印象的。詰上り形も鮮やか。

西村恒雄―27王と35王が何と

も言えない感触の手。35王は手がしなる。

武田静山―鮮やかな収束形に惚れ惚れ、先に3連続桂打をやって苦労した甲斐がある。

☆正に好形好手順の完成品。詰手順は比較的易しいですが、王による間接王手と直接王手、性能変化による王手と性能復元による王手という対比を含み、美しい詰上りと合わせ大変好評でした。更にこの手順は次のように解釈できます。

花井秀隆―玉の活用により桂を打つ順番を変えることに成功。

☆普通に桂を29→28→27→26の順に打っては詰まないので、王の活用で29→28→26→27の順に直します。

☆このような「打順調整」の構想は普通詰将棋にも応用可能で、実際にこの解釈が当てはまる作品も存在します。フェアリーに興味がないという人も、本作は決して見逃してはいけません。

③安騎ばか千日手　12手

北村太路

	9	8	7	6	5	4	3	2	1
一	v王								
二			香	v香			飛		
三									
四	v角								
五							香		
六									王
七			香			v角			
八			飛						
九									

持駒　なし

11王、82玉、51王、19玉、59王、28玉、89王、73玉、86王、28玉、16王、91玉迄12手。

【安騎】自駒から八方桂の位置にある味方駒の利きに駒の利きが変わる。

【ばか千日手】先後協力して最短手数で初形に戻す。

須川卓二―先手王の世界一周旅行。長距離移動が多いですね。

市村道生―八方の利きに神経を使う。軽妙な好手の連続。

雲海―作者名で全ての着手が玉とピンと来ました。玉が大きく動き回るさまは楽しい。

☆盤面を駆け巡る壮大な玉の追い掛けっこ。安騎ルールは八方に変身場所がある上、飛び道具が多数配置されており、変身させるか変身を解除するかでも迷います。全着手が玉だとヤマを張っても簡単には解けません。

作者―縦横の時間軸と電圧を斜めの線に投射したオシロスコープ？みたいだなぁ、と掲載後に思いました。

☆攻方王が斜線を描くオシロスコープですね。この斜めの往復運動が、常に「玉＝角」となる錯覚を招いたのか、2手目55玉とした誤答がありました。性能変化の確認をくれぐれもお忘れなく！

④安騎ばか自殺詰　56手

神無七郎

	4	3	2	1
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九		v王		王

持駒　金金

29金、48玉、38金、57玉、47金、58玉、28王、67玉、58金、56玉、47金、45玉、

36金、55玉、45金、56玉、
37王、65玉、55金、66玉、
36王、75玉、66金、64玉、
55金、53玉、44金、63玉、
53金、64玉、45王、73玉、
63金、74玉、44王、83玉、
74金、72玉、63金、61玉、
52金、71玉、61金、72玉、
53王、81玉、71金、82玉、
52王、83玉、82金打、73玉、
61王、63玉、73金、52玉
迄56手。

駒井信久―8手サイクルでは手数オーバーになる。というわけで珍しい「ケイマ送り」ですね。他に例がないのでは?

☆駒井氏は本作の仕組みと狙いを一言で表してくれました。「桂馬送り」自体は「将棋妙案」第63番等の例がありますが、従来の作品にはその軌道を強制する配置があります。拘束条件なしで自発的に中途半端な角度で進む送り趣向……それが本作の狙いです。

原雅彦―新規のルールは頼りないので、よっぽど58手詰にしようかと。

☆「桂馬送り」が成立する理由は「手数短縮」。攻方王を詰めるには1段目に王を運び、利きを金にする必要がありますが、普通に斜め45度に進むと2段上がるのに8手×2=16手掛かります。作意のように桂馬型に進めば2段上がるのに14手で済むのです。この手順は「安騎」というルール下で成立していますが、通常のルールでもこれが可能かどうかは興味深い研究テーマです。

⑤対面キルケばか自殺詰 14手
たくぼん

6	5	4	3	2	1	
						一
						二
						三
						四
			王			五
						六
	玉					七
						八
						九

持駒　銀

46銀、45歩、同王／43歩、48玉、37銀、36飛、57銀、同玉／79銀、68銀、67飛、58銀、同玉／79銀、68銀、56飛引成迄14手。
（／は復活位置を示す）

【対面】敵駒と向かい合うと、互いに利きが入れ替わる。

【キルケ】駒が取られると最も近い将棋での指し始め位置に戻される。戻せないときは持駒になる。

☆キルケの特徴は取ったはずの駒が逃げること。もし本作の構図でキルケの条件がなければ、誰もが46銀、45飛、同王……の手順を読むでしょう。しかしこれでは飛が攻方王から遠い82に去ってしまい、役に立ちません。

作者―意表の歩合の反応が楽しみ。

☆46銀に対して飛ではなく歩で受けるのが眼目の一手。「遠くの飛より近くの歩」というわけです。

市村道生―玉頭での止めは不調。そこで方針一転して包囲網。左の飛車に苦労。

☆序は受方の復活が主題ですが後半は攻方の復活が主題。銀が5筋で2度取られますが、2回とも攻方王に近い39ではなく遠い79へ復活します。銀で飛を発生させて

操る手順は「対面」の頻出手筋ですが、「キルケ」をそれに絡めることで趣向的な手順が生まれました。

神谷薫―解けたのが不思議な好作。

☆作者以外の正解者は2名。45歩に直接触れた評はありませんが、作者の主張は確実に伝わったと思います。

⑥Isardamばか自殺詰　8手

花井秀隆

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
					と	と			三
							王		四
			飛						五
				王	桂				六
				金					七
									八
									九

持駒　角

35角、15飛、45王、13角、64飛、14飛、34王、35玉迄8手。

【Isardam】同種の敵駒の利きに入る手を禁止する。

(補足)

・玉を取ると同種の敵駒の利きに入る場合は王手とみなさない。(タイプA)

須川卓二―ラスト2手が気付き難い。何度考え直したことか……。

☆本作の注目は何と言っても最終2手。玉による直接王手の応酬です。マドラシに玉を含むものと除外するものがあるため、その対応物であるIsardamも玉同士の衝突を可とするものと不可とするものが考えられます。今回の出題は前者であり、本作はその設定を最大限活用しています。

雲海―説明のヒントで何とか解けました。34王は普通では思いつかない。

☆7手目34王は同玉と取れない(角の利きが衝突する)のを見越した手。玉が普通の駒の様に振舞うIsardamならではの王手です。返し技の35玉も同王と取れない(飛の利きが衝突する)ことを見越しています。

☆また、舞台作りの手順も見事です。3手目45王は24角としても45飛と取れないことを見越したIsardamの高級手筋ですし、受方は最終手まで玉を逃げず、駒を取ることさえありません。作者は「逃げる」「取る」という平凡な受けを意図的に抑制することで、高密度の手順を実現しているのです。

☆今回は紙数の関係で出題時に例題を付けられなかったのですが、それでも本作は⑤より多い正答数を得ました。パラ解答陣の実力を示す結果というべきでしょう。

〔各題の正・誤・無解数〕

①16 0 6　②20 3 3　③6 1 19
④6 0 20　⑤3 0 23　⑥4 1 21

〔解答成績〕(太字5名当選)

【全題正解】須川卓二

【5題】市村道生、花井秀隆

【4題】駒井信久、**神谷薫**、雲海

【3題】原雅彦、**和田裕之**

【2題】飯山修、西村恒雄、北村太路、竹中健一、赤井秀雄、**武田静山**

【1題】**山本強志**、**平尾一土**、小峰耕希、原岡望、岩本修、占魚亭、佐藤善起、雫保友、変寝夢

【0題またはコメントのみ】藤原勝博、安原嗣治、佐藤司